



Waseda University

2024年 第10回IATSS国際フォーラム (GIFTS)

ワークショップ

より安全な社会に向けた繋がり・ 収集・伝達

[モデレーター]

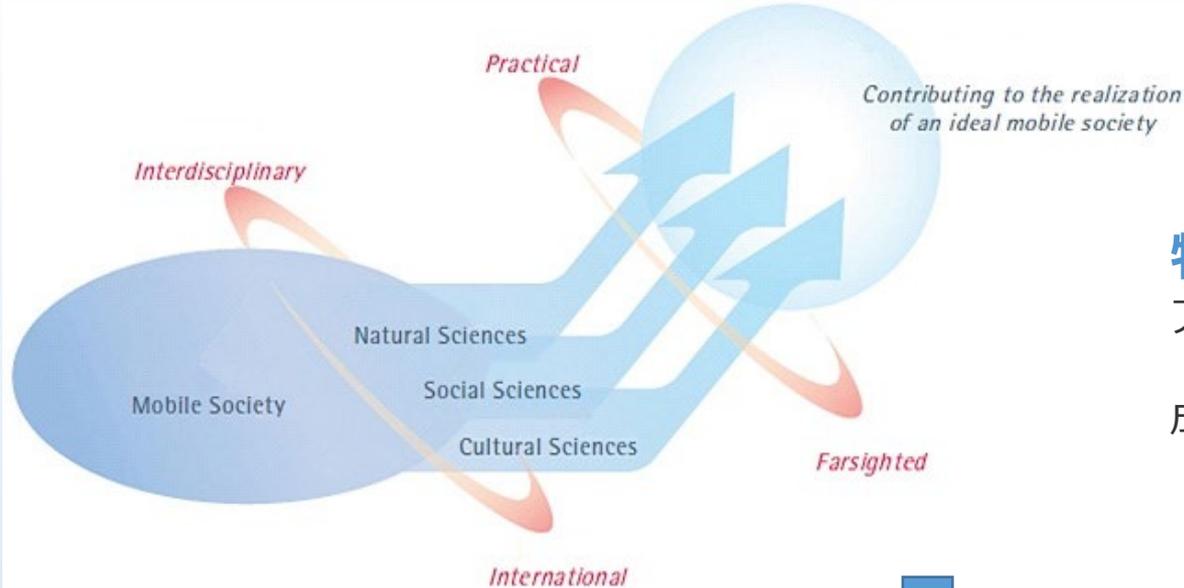
森本 章倫

[プレゼンター]

クラウディア・アドリアゾーラ=ステイル

マイケル・アニャラ

須原 靖博



目標

理想的な交通社会の実現に向けて
貢献すること

特徴

アプローチ：

学際的・国際的なアプローチ

成果：

実践的かつ先見的

2019年～2021年 交通・安全における国際研究協調 (GRATS)

2022年～2024年 社会実装に向けた国際協カプロジェクト

道路交通安全のビジョンを共有し、IATSSの役割を実践



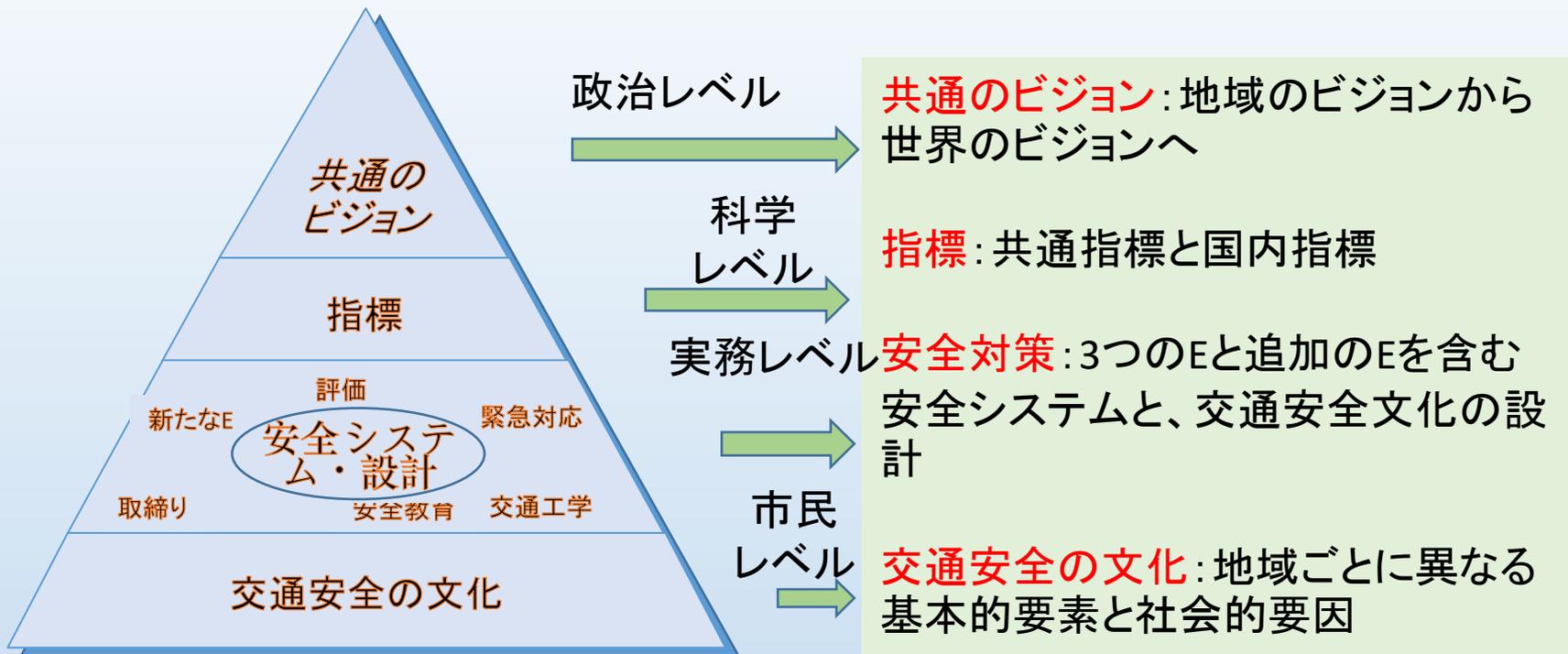
道路交通安全の概念的枠組み



Waseda University

私たちは、誰も取り残されることのない安全な交通社会を創造するために、共通の責任を共有しています。

Global Interactive Forum on Traffic and Safety (2021)





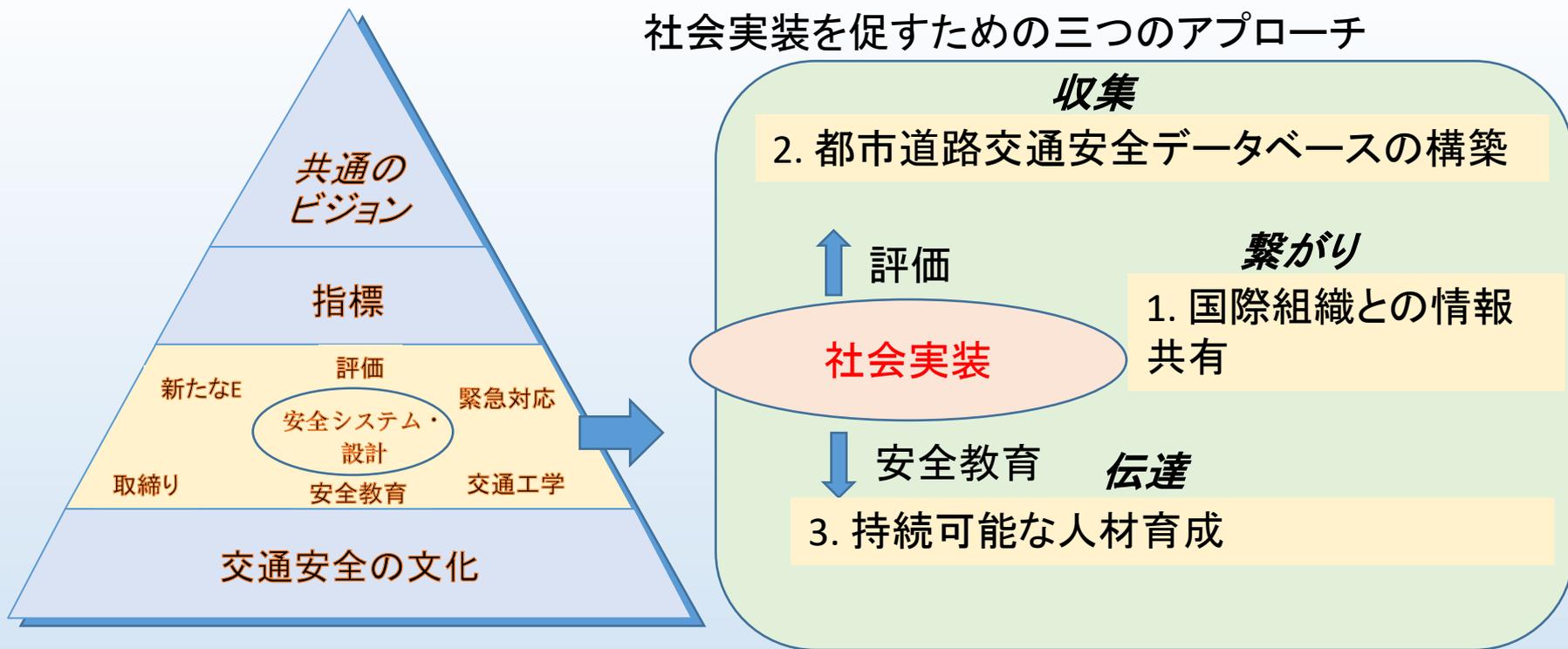
道路交通安全の概念的枠組み



Waseda University

社会実装に向けた国際協カプロジェクト(2022年~2024年)

社会実装を促すための三つのアプローチ

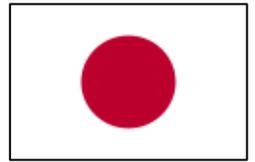


Global Interactive Forum on Traffic and Safety (GIFTS) 2024

より安全な社会に向けた繋がり・収集・伝達



1. 国際組織との情報共有



第11次交通安全基本計画(2021年)

2022年～2026年

基本原則

私たちは、最終的には**交通事故のない社会**と、世界をリードする交通安全な社会の実現に向けて大きく飛躍することを目指している

目標

24時間あたりの**死者数が2,000人未満**という世界で最も安全な道路交通を達成すること

2,839人(2021年) → (30%削減) → 2,000人(2026年)

5年間で30%削減できれば、10年で半減させることが可能

国連交通安全協力グループ

GLOBAL PALN; 道路交通安全のための行動の10年(2021年～2030年)

BY AT LEAST 50% during that period

分野横断的な重要事項

日本では、過去半世紀にわたる様々な対策や関係者の努力のおかげで道路交通事故件数が大幅に減少してきた。しかし、世界に目を向けてみると、道路交通事故による死者数が年間135万人を超えている。道路交通事故件数を減らすためには、**日本の知見を世界と共有・活用し、国際的な協調・協力を促す**ことが重要である。



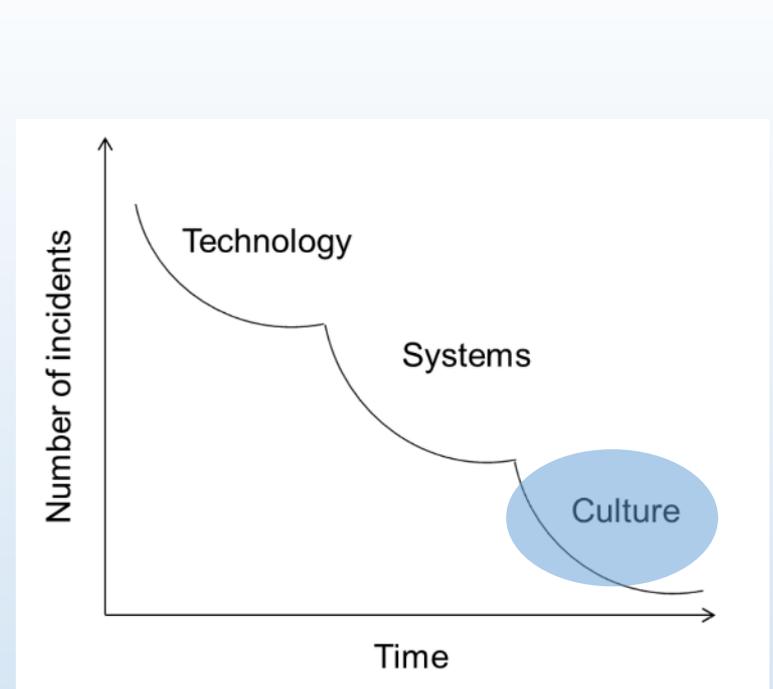
日本におけるビジョンゼロに向けて

技術を中心としたすべての対策



日本の道路交通事故死者数(1966-2020)

<https://www.npa.go.jp/english/bureau/traffic/index.html>



交通安全の発展における三つの時期 (Özkan, 2018)

3. 持続可能な人材育成

【設立背景と目的】

1983年12月本田宗一郎氏とマレーシアマハティール首相の出会いにより、IATSSの10周年事業として始まった人材育成事業。

将来の国や社会の持続的な発展に寄与できるリーダーの育成を目的に、東南アジア9カ国＋インドから若いプロフェッショナル人材を約2カ月日本に招請。

各種体験的学習を通しリーダーシップを磨く。(1回20名参加、年に2回開催)



人材育成の一例：
IATSSフォーラム



【研修テーマの新設】

2024年度～実施

「モビリティを通じたWell-beingの向上」

既存セミナー/フィールドスタディのテーマ(政治経済、教育、公害復興、震災と復興、地域振興、ダイバーシティなど)に加え、交通工学、データ・テクノロジーと交通、交通弱者と公共交通、モビリティと街づくり、IATSSやホンダの交通や安全の取り組みなどの観点を入れ、リニューアル！

宇都宮フィールドスタディ

ネットワーク型コンパクトシティを目指したまちづくり取り組みと宇都宮LRT



ホンダ安全への取り組み



IATSS創始者レガシー



40周年を目前にモビリティ題材コンテンツを新規導入。
モビリティに理解をもつリーダーの輩出に寄与